

1 スポーツ・レクリエーションの状況

(1) 市民のスポーツに係る意識

- ・川越市教育委員会「生涯学習に係る市民意識調査」より
- ・平成20年10月1日現在

①スポーツをする頻度

- 【現状】
- 月1回以上のスポーツ実施率…36.4%
(男性…42.8% 女性…31.8%)
 - スポーツをほとんどしていない市民の割合…57.8%
(男性…52.2% 女性…61.8%)
 - ・20歳代・60歳代・70歳代は、実施率が高い。
 - ・30歳代・50歳代は、実施率が低い。
 - ・20歳代・30歳代の女性は実施率が低い。

働き盛りの年代や、子育てに時間を費やす年代の女性は、仕事や家事、子育て等のため、スポーツを楽しむゆとりが少なく、スポーツ実施率が低いと考えられます。

ここでの「スポーツをする頻度」とは、スポーツを「行う」ことについて表したのですが、スポーツ活動には、「行う」ことの他に、スポーツを「見る」、「支える」、「学ぶ」等の多様なかかわり方があり、市民のニーズにも広がりが見られるようになってきました。今後は、スポーツへの様々なかかわり方を充実させていくことも必要です。

《課題》

- ・働き盛り世代や女性のスポーツ実施率向上のための取組の充実
- ・スポーツを「見る」、「支える」、「学ぶ」等の多様なかかわりを推進するための取組の充実

②スポーツをする場所

- 【現状】 ○自宅周辺…37.5%
(20歳代33.3% 30歳代27.4% 40歳代26.1% 50歳代32.9% 60歳代47.9% 70歳代以上47.5%)
- 民間施設…32.9%
(20歳代36.7% 30歳代47.6% 40歳代41.3% 50歳代37.8% 60歳代24.8% 70歳代以上16.3%)
- 公共施設…28.3%
(20歳代25.0% 30歳代32.1% 40歳代35.9% 50歳代17.1% 60歳代26.7% 70歳代以上33.8%)

年代別に施設の利用状況を見ると、20～50歳代は、民間や公共施設を利用している市民が多く、60・70歳代以上は自宅周辺でスポーツに取り組んでいる市民が多くなっています。したがって、20～50歳代の市民は設備が整っている民間や公共施設でスポーツ活動を行い、60・70歳代の市民は、ウォーキング等、身近な環境でできる運動に取り組んでいることが推察できます。

また、年代に限らず、スポーツ施設の充実を望む声も多くあります。

《課題》

- ・気軽にスポーツに取り組める環境の整備
- ・公共スポーツ施設の充実、新設体育館の建設

③スポーツ施設の整備希望

- 【現状】 ○多目的グラウンド…23.2%
○プー ル …15.0%
○体 育 館 …10.8%
○その他 (テニスコート、サッカー場、野球場等) …51.0%

様々なスポーツニーズに対応できるように多目的グラウンド、市民の健康志向を背景にプールの整備希望が多くなっています。また、スポーツ施設に幼児室を設置するなど、子どもを持つ家庭への配慮を求める声も多くなっています。

《課題》

- ・公共スポーツ施設の充実、新設体育館の建設
- ・関係課と連携した運動施設・設備の充実
- ・子どもを持つ家庭等への配慮

④スポーツ教室の開催希望

【現状】 ○健康体操 …34.1% ○ヨーガ …23.0%
 ○スイミング …21.5% ○ウォーキング…21.5%

これらの教室は、どの年代においても希望が多く、気軽にできるスポーツであると同時に健康づくりへの関心が高いことがわかります。

なお、スポーツ振興課においては、平成21年度に14のスポーツ教室を開催し、合計62回、延べ2,239人の参加者がありました。また、関係課や外郭団体等でも、健康づくりを目的とした教室、高齢者や障害者を対象としたスポーツ教室等を開催しました。

《課題》

- ・年齢、性別、障害の有無等に配慮した、継続的なスポーツ教室の開催
- ・健康づくりを目的とした教室の開催

(2) スポーツ大会・イベントの開催

【現状】

市民のだれもが気軽にスポーツを体験し、その楽しさを味わうとともに、心身の健康増進と市民相互の交流を目的として開催される「川越市生涯スポーツフェスティバル」は、平成16年度から開催され、本市の一大スポーツイベントとして定着しています。毎年11月3日に開催されるこのフェスティバルは、ウォーキングコーナー、綱引きコーナー、体力測定コーナーの他、様々なスポーツ体験ができるふれあいコーナーなどを開設しています。また、模擬店の出店、抽選会やアトラクションの実施など、参加者に楽しんでいただけるように内容を工夫しています。ここ数年約3,000人の参加者があります。

また、平成22年度には、市民の健康増進と川越の魅力創出のため、「小江戸川越マラソン2010」を開催しました。特色ある大会として育てていきたいと考えています。

この他、年間を通じて開催される市民体育祭、市民駅伝競走大会、グラウンド・ゴルフ中央大会等を開催するとともに、ラジオ体操会の普及、地区体育祭の振興等にも取り組んでいます。

《課題》

- ・参加者増加のための市民への周知
- ・特色があり、魅力あるスポーツ大会・イベントの開催

(3) 総合型地域スポーツクラブ

【現状】

多世代、多志向、多種目を特徴とした、地域住民が主体となり運営されるスポーツクラブが「総合型地域スポーツクラブ」です。スポーツ活動だけでなく、文化的活動を取り入れているクラブもあります。

これまでのスポーツを支えてきたのは、学校や企業と言われています。余暇時間の増大や健康への関心の高まりなど、社会の変化に対応した新しいスポーツのあり方として、文部科学省が「スポーツ振興基本計画」の中で、この総合型地域スポーツクラブの育成を掲げました。

本市においては、平成15年2月に「芳野スポーツクラブ」が設立され、各種スポーツ教室やスポーツ交流事業、広報・啓発活動、会員親睦事業等、幅広い活動を展開しています。また、平成21年2月には、本市二番目となる、「川越公園スポーツクラブ」が設立されました。

それぞれのクラブでは、個々のクラブの特性を生かしながら、創意工夫を凝らして活動を推進していますが、財源の確保、拠点となる活動場所の確保などの課題を抱えています。

《課題》

- ・新たな総合型地域スポーツクラブの創設
- ・クラブの自立への支援(財源や拠点となる活動場所の確保等)
- ・クラブ間ネットワークの構築

(4) スポーツ指導者の育成・活用

【現状】

本市においては、学校での体育指導の他、体育指導委員やスポーツ少年団指導員、競技団体として体育協会へ加盟している指導者等が、それぞれの立場でスポーツ指導を行っています。そして、これらの指導者との連携を図り、スポーツ教室等の事業を展開しています。

近年、ウォーキングやジョギングを楽しむ人々の増加、ニュースポーツの普及など、市民のスポーツの楽しみ方も多様化しています。このような幅広いニーズに対応していくためには、スポーツ指導者の資質能力を高めていく必要があります。

《課題》

- ・幅広いニーズに対応できるスポーツ指導者の養成
- ・スポーツ指導者を活用できるシステムの構築

(5) 学校体育・スポーツ

【現状】

外遊びができる場所の減少や科学技術の進歩による生活環境の変化等により、子どもたちの体を動かす機会が減少し、子どもたちの体力は低下傾向にあります。

本市の新体力テスト（8種目…握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン（小）、持久走（中）、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ）の結果では、小学校では男女共に県平均を下回る傾向にあり、中学校では一部の種目で県平均を上回っているものの、下回る種目も見られます。

ここ数年の結果を比較すると、上昇傾向にある種目もあり、学校や地域での体力向上に対する取組の成果が表れています。今後も子どもたちの体力向上に向けた取組を充実させていく必要があります。

また、近年、運動やスポーツに積極的に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化傾向も見られ、心身の発達の著しいこの時期に、スポーツの楽しさを

体感したり、その必要性を感じたりすることの重要性がますます大きくなって
います。

《課題》

- ・子どもたちの体力を向上させるための体育活動の推進
- ・運動やスポーツの特性に触れた楽しさを体感させることのできる体育活動の推進
- ・子どもたちの発達段階を考慮した体育・スポーツ指導の充実



学校における体育授業（小学校）



小江戸川越マラソン

2 スポーツ施設の状況

(1) 本市のスポーツ施設

【現状】

本市の主なスポーツ施設としては、スポーツの拠点ともいべき川越運動公園に、陸上競技場・総合体育館・テニスコートがある他、武道館、地域の体育館、軽体育室、テニスコート、野球場、サッカー場、プール等があります。

また、小・中学校の体育館・運動場・武道場の開放を行っています。

さらに、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、川島町、毛呂山町、越生町、川越市の7自治体で構成する「埼玉県川越都市圏まちづくり協議会」による公共施設相互利用により、市域を超えた広域でのスポーツ施設の利用が可能となっています。

市内のスポーツ施設については、複数の部署でそれぞれ所管しています。この他各地域で所管している運動広場もあります。スポーツ行政を推進するスポーツ振興課では、平成22年度においては、指定管理者として管理を委託している川越運動公園内の施設の他、川越武道館を所管しています。

このようなスポーツ施設の利用者は年々増加傾向にある反面、旧市民体育館取り壊し後は、大会の開催が総合体育館に集中するなどの問題が生じています。既存施設の老朽化による修繕や更新・整備などの課題もあります。また、市民からは、多目的グラウンド等の新たな施設の設置や設備の充実についての要望も多くあります。

《課題》

- ・ 学校体育施設開放事業の充実
- ・ 公共スポーツ施設の充実
- ・ 新設体育館の建設

(2) スポーツ施設利用予約の方法

【現状】

平成21年度から、一部のスポーツ施設を除き、公共施設予約システムの稼働が開始されています。

このシステムは、携帯電話やパソコンにより利用状況を確認できる他、登録することにより施設利用予約を行うことができます。

従来は、月初めに各施設に出向いて予約するなど、利用予約の方法について、必ずしも市民にとって容易な方法ではありませんでしたが、このシステムの稼働により、少しずつ改善されてきています。最近では、無断キャンセルの問題も生じており、なるべく多くの市民が活用できるように工夫をしていく必要があります。

《課題》

- ・ 公共施設予約システムの市民への周知
- ・ 公共施設予約システムの内容の充実

(3) 学校体育施設の開放

【現状】

学校体育施設については、小・中学校の体育館や運動場、武道場を、登録された団体に、学校の教育活動に支障のない範囲で開放しています。

平成21年度の年間利用者数は、延べ455,186人であり、身近な活動拠点となっているとともに、地域のコミュニケーションの場としても利用されています。学校ごとに開放学校施設運営委員会を組織し、利用調整や施設設備の管理等にあたり、自主的で効率的な開放事業が推進されています。公共スポーツ施設の設置が十分とは言えない状況の中で、学校体育施設の開放は、市民にとって必要不可欠なスポーツ活動の場となっています。

この他、夏季においては、学校プールの地域への開放を行っています。平成21年度は、小学校1校の屋外プールと霞ヶ関北小学校の屋内プールの開放を行いました。霞ヶ関北小学校では、40日間開放し、3,263人の利用者が

ありました。市民からは学校プール開放の拡大についての要望が寄せられています。

《課題》

- ・ 学校体育施設・設備の整備
- ・ 学校体育施設開放の充実

(4) スポーツ施設の管理

【現状】

スポーツ施設については、所管する部署において、市民が利用しやすいよう管理を行っています。また、一部の施設については、指定管理者制度による施設管理を行っています。

今後は、あらゆるスポーツ施設において、市民の利用を促進し、市民サービスの向上と経費の削減を図っていく必要があります。

《課題》

- ・ 効率的な施設管理の推進



川越運動公園 陸上競技場